南北朝廷のまとめ

南	後醍醐天皇																		後村上天皇											
北			光厳天皇				空位		光明天皇																					
西暦	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347
南朝	元弘元年	元弘元年	元弘2年	元弘3年	建武元年	建武2年	延元元年	延元2年	延元3年	延元4年	興国元年	興国2年	興国3年	興国4年	興国5年	興国6年	正平元年	正平2年
北朝	元徳2年	元徳3年	正慶元年	正慶2年	建武元年	建武2年	建武3年	建武4年	暦応元年	暦応2年	暦応3年	暦応4年	康永元年	康永2年	康永3年	貞和元年	貞和3年	貞和3年
主な出来事		後醍醐天皇が挙兵する		後醍醐天皇の親政始まる	建武の新政の混乱	中先代の乱	足利氏武家政権の成立	南北朝の攻防、越前金ヶ崎の戦い	尊氏は征夷大将軍になる	後醍醐天皇は崩御される			天龍寺船、元に渡航する			天龍寺、落成供養が行なわれる		

南	後村上天皇																							
北	崇光天皇				空位	後光厳天皇																		
西暦	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366
南朝	正平3年	正平4年	正平5年	正平6年	正平7年	正平8年	正平9年	正平10年	正平11年	正平12年	正平13年	正平14年	正平15年	正平16年	正平17年	正平18年	正平19年	正平20年	正平21年
北朝	貞和4年	貞和5年	観応元年	観応2年	文和元年	文和2年	文和3年	文和4年	延文元年	延文2年	延文3年	延文4年	延文5年	康安元年	貞治元年	貞治2年	貞治3年	貞治4年	貞治5年
主な出来事	吉野行宮が陥落する	足利基氏は鎌倉公方となる	観応の擾乱起こる	足利尊氏が一時的に南朝に降伏し、正平一統が成立	足利直義は急死する。北畠親房が正平一統を破棄。尊氏、征夷大将軍を解任される。八幡の戦い	足利基氏は入間川陣に移る	河内天野の金剛寺に行宮を移す	足利直冬の京都奪還は失敗する		南朝方に軟禁された光厳上皇は帰京する	足利尊氏は死去する		二代将軍義詮赤坂城を攻め落とす	正平の大地震が発生する		足利基氏は鎌倉に戻る		義詮は三乗坊門万里小路の新邸に移る	

南	後村上天皇	長慶天皇	後亀山天皇
北	後光厳天皇	後円融天皇	後小松天皇

西暦	南朝	北朝	元号	主な出来事
1367	正平22年	貞治6年		二代将軍義詮が死去し、義満は三代将軍を継ぐ
1368	正平23年	応安元年		後村上天皇は崩御され、長慶天皇が即位する
1369	正平24年	応安2年		義満は征夷大将軍の宣下（せんげ）を受ける
1370	建徳元年	応安3年		
1371	建徳2年	応安4年		後光厳天皇の譲位により、後円融天皇が即位
1372	文中元年	応安5年		
1373	文中2年	応安6年		長慶天皇は河内天野の金剛寺から吉野に還幸する
1374	文中3年	応安7年		義満は参議に補任。左近衛中将を兼任
1375	天授元年	永和元年		
1376	天授2年	永和2年		
1377	天授3年	永和3年		
1378	天授4年	永和4年		義満は権大納言に転任、右近衛大将兼任。義満の邸宅の造営始まる
1379	天授5年	康暦元年		康暦の政変 斯波義将が管領職に就任
1380	天授6年	康暦2年		歌会初めなどが義満によって再興される
1381	弘和元年	永徳元年		通称「花の御所」が完工する
1382	弘和2年	永徳2年		後小松天皇即位。相国寺の創建が決まる
1383	弘和3年	永徳3年		後亀山天皇、長慶天皇の譲位を受けて即位。義満は源氏長者となり、准三后の宣下
1384	元中元年	至徳元年		義満が右近衛大将辞任
1385	元中2年	至徳2年		

南	後亀山天皇
北	後小松天皇

西暦	南朝	北朝	元号	主な出来事
1386	元中3年	至徳3年		
1387	元中4年	嘉慶元年		
1388	元中5年	嘉慶2年		義満が左大臣を辞任する
1389	元中6年	康応元年		義満は土岐康行を討つ
1390	元中7年	明徳元年		土岐康行の乱
1391	元中8年	明徳2年		明徳の乱。義満は守護大名の山名氏清を討伐
1392	元中9年	明徳3年		明徳の和約。南北朝の統一。「相国寺」竣工
1393	明徳4年			
1394	明徳5年	応永元年		義満は将軍職を嫡男に譲って隠居。太政大臣に転任、つづいて辞任